報告事項　６

愛知県幼児教育研究協議会の協議題について

このことについて、別紙資料に基づき報告します。

平成２８年４月１２日

義　務　教　育　課

平成２８・２９年度　愛知県幼児教育研究協議会　協議題

＜協議題＞　生涯にわたる学びを支える幼児教育の在り方
―幼児期における「学びに向かう力」の育成を通して―

１　設定理由

（現　状）

・　就学前に幼児に教育・保育を提供する場として、従来の幼稚園、保育所に加え、認定こども園など様々な施設があり、幼児教育を取り巻く環境は年々変化している。また、核家族や共働き家庭の増加に伴い、一日の多くの時間を園で過ごす幼児が増えており、幼児教育が担う役割は、ますます重要になってきている。

・　近年、少子化や情報化の進行などの影響により、幼児は、考えを表出する力、感情をコントロールする力、自己肯定感などに弱さが見られるようになっている。これからの社会の変化に対応するたくましさや協働性を身に付けるためには、幼児期における生活習慣や学びの土台となる力の育ちが大きく影響していくと考えられている。

・　園や保育者に子育てへの不安や悩みを相談する保護者も増え、幼児教育の充実を図るために、園は家庭や地域と幼児教育の重要性について共通理解を図り、協働して幼児を育てていくことが期待されている。

（社会の要請）

・　幼児教育は、生涯教育の入り口である。次期学習指導要領では、幼児期において育成すべき資質能力として探究心や思考力、表現力に加えて、興味・関心や感情、行動のコントロール、粘り強さ等のいわゆる「学びに向かう力」を育むことが、小学校以降の学びにつながる重要な点であると述べられており、今後、小学校教育を見通した幼児教育への期待が一層大きくなるものと考える。

・　文部科学省が平成２７年１月に発行した「スタートカリキュラム」には、幼児期における学びの芽生えを小学校以降の自覚的な学びへとつなげていくことの重要性が、具体的に示されている。

２　検討すべき課題

発達や学びの連続性を踏まえ、幼児期にふさわしい「学びに向かう力」を育むことは、小学校での意欲的に学ぶ姿につながっていくと考える。幼児期に、遊びを中心とした教育・保育の中で、幼児がどのように、何を学んでいるのかを明確にして、更なる教育・保育の質の向上を目指していくことが必要である。

本協議会では、幼児期に育みたい「学びに向かう力」について協議し、生涯にわたる学びを支える幼児教育の在り方を明らかにすることで、「愛知の幼児教育指針」の基本理念の実現に資する幼児教育の推進を図っていく。

○　小学校への学びにつながっていく、幼児期における「学びに向かう力」を発揮している幼児の姿とは。

○　「幼児理解」「環境の構成」「家庭との連携」から捉えた「学びに向かう力」が育つための援助の在り方とは。